

## アイルランド語文献と音声資料による近代ア イルランド言語文化の多角的研究

梨本, 邦直 / NASHIMOTO, Kuninao

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

5

(発行年 / Year)

2012-05

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520346

研究課題名（和文） アイルランド語文献と音声資料による近代アイルランド言語文化の多角的研究

研究課題名（英文） Studies on Modern Irish Language and Culture Based on Oral and Written Materials in Irish

研究代表者

梨本 邦直（NASHIMOTO KUNINAO）

法政大学・理工学部・教授

研究者番号：30340748

研究成果の概要（和文）：ブライアン・メリマン(Brian Merriman, 1749-1805)による『真夜中の法廷』(Cúirt an Mheán Oíche)を共同で分析し翻訳した。テキストにはケンブリッジ大学図書館にあるメリマン直筆と言われる手書き原稿を基にした、Liam Ó Murchú (1982) 編のテキストを用い、疑問点は随時、写本 Cambridge Library Add.6562 を参照した。分析は言語学、韻律論、文学史、歴史、アイルランド社会などの多角的な観点から行った。この翻訳と分析結果は出版の形で公開するために現在準備中である。現代アイルランド語と文化に関する各自の研究テーマについては既に論文、著書、学会発表の形で公開済みである。

研究成果の概要（英文）：One of the most influential poems written in the 18th century Ireland, *Cúirt an Mheán Oíche* (Brian Merriman, 1749-1805) was analyzed and translated into Japanese from the text based on the MS (Cambridge Library Add.6562) which is believed to be handwritten by Merriman himself. The analysis has been done from a range of perspectives in the different disciplines including linguistics, prosody, literary tradition, history, and society. The publication of this translation with its analyses is currently in preparation. With regard to the individual research themes in the fields of the modern Irish language and culture, many of them have been publicized in the forms of books, papers, and conference presentations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：アイルランド語、アイルランド文学の伝統、アイルランド語無伴奏歌唱、ブライアン・メリマン、18世紀アイルランド、アイデンティティ、アイルランド語現代詩

## 1. 研究開始当初の背景

本研究グループが平成 15～17, 18～20 年度に受けた科学研究費補助金による研究結

果として出版に至った文法書『アイルランド語文法—コシュ・アーリゲ方言』と論文集『今を生きるケルト』は、日本におけるアイルラ

ンド・イギリス地域の研究に画期的な進歩をもたらすものであった。また、同グループはアイルランド語詩人ヌーラ・ニゴールを招いて一般公開の朗読会を開き、アイルランド語文学研究者リーアム・オムルファー（コーク大学教授）を招へいしてセミナーと公開講演を開いた。これらの活動は日本におけるアイルランド理解の深まりに対し着実に貢献するものであった。その継続として18世紀のアイルランド語資料を使うことによって、英語を通じての間接的研究では見逃されてきた現代の言語状況、文化状況を包括的に把握することにした。

## 2. 研究の目的

アイルランドにおいては、英語で書かれ、表現された媒体ではあっても、その文化の伝統的な基盤にはアイルランド語で表現されていた時代のケルト文化の名残が根強く引き継がれている。アイルランドの言語問題は、歴史的にも政治的にもヨーロッパ、イギリスと深いかかわりを持っている。本研究プロジェクトが研究対象とするのは、アイルランド語の背後にある政治的、歴史的、文化的問題のすべてに関するものである。深いアイルランド文化の理解と研究にはわれわれの組織のように多角的かつ総合的に検証する必要がある。このコンセプトに基づいて、この研究組織の各メンバーがアイルランド語文献、音声資料を用いて、広い視野に立った分析と研究を行い、その結果を翻訳や注釈の形で発表し、これまで日本で知られてこなかったアイルランドの文学、言語、歴史、芸術の状況を広く一般に伝える。

## 3. 研究の方法

(1) 研究代表者・研究分担者・提携研究者が研究打ち合わせ及び共同分析、翻訳作業を行うために、京都で催す研究会に定期的に出席する。情報の集約、交換はメールで行う。

(2) 研究論文集作成のための現地調査

① 研究代表者・研究分担者・連携研究者の中から年に少なくとも2名がイギリス・アイルランドで資料収集、調査を行う。

② インタビュー、歌、その他の音声はすべてデジタル処理して記録する。採取録音もしくは購入した音声資料について、スクリプトが必要なものは書き起こす。

③ 共同研究に使う文献（メリマン『真夜中の法廷』とキーティング『アイルランドの歴史』の写本のデジタル・コピーを入手し、分析と考察の対象とする。

(3) アイルランド語文献の共同翻訳

日本におけるアイルランド研究のみならずヨーロッパ地域の文化、歴史の研究者に資するものを発表するため、ブライアン・メリマン(Brian Merriman, 1749-1805)による『真

夜中の法廷』(Cúirt an Mheán Oíche)を分析し、翻訳に分析結果と注解を付けて出版の形で公開することとする。

## 4. 研究成果

(1) ブライアン・メリマンの詩『真夜中の法廷』全1026行において、全3回の分析・解釈を3年間で計12回の研究打ち合わせ会を通じ、延べ24日間にわたって行った。その結果、『真夜中の法廷』について以下の成果が得られ、現在、本の形で発表するために準備中である。

- ・梗概
- ・日本語訳
- ・文法分析
- ・語彙分析
- ・意味解釈注解
- ・韻律分析
- ・18世紀の詩の伝統とアイルランド社会史

以下に詩の梗概を述べる。

### 『真夜中の法廷』梗概

時は18世紀後半、7月のある日。主な舞台は北マンスター地方ソモンドのフィークルで開かれる妖精の法廷。登場するのは、詩人、廷吏である妖精の大女、法廷で裁判を司る妖精の予言者イーヴァル、結婚できないアイルランドの状況を嘆く若い女、結婚しているが若い妻の不倫を糾弾する老人、である。詩は詩人の視点から描かれる物語という全体の枠組みがあり、その物語の中でそれぞれの登場者が自説を主張する法廷場面が劇中劇の形で繰り広げられる。『真夜中の法廷』の物語全体の流れは、大きく4つに分けられる。

①「特別なこの法廷を開く理由と若い女の訴え」(1行～356行)

グレーネ湖のあたりを逍遥した後、疲れて眠りに落ちた詩人は、アイルランドの現状を嘆く妖精の廷吏である醜い大女に引立てられ、真夜中の法廷に出廷させられる。法廷を司るのは北マンスター地方の妖精の予言者イーヴァル。初めに証言台に立つのは、訴訟を起こした当の美しく若い女。自分を含めた若い年頃の娘たちが結婚できないのは、若い男たちが小金をためた薄汚い年増に奪われてしまうから。そのせいで人口が減りアイルランドはますます困窮している。適齢期の娘が老人ではなく若い男と結婚できるようにして欲しい、と訴える。

②「若い妻に裏切られた老人の反駁」(357行～644行)

この訴えに対して、激昂して法廷席に飛び出てきたのは老人。結婚の縛りこそが大罪と訴える。若い女と結婚し盛大な結婚披露宴までしたのに、妻に裏切られ他人の子を自分の子

として育てている有様。いっそ、結婚の縛りなどなくして、自由に子供をつくり、子孫を増やすようにするとよい。そうすれば、古のアイランドの活力が戻ってくる、と主張する。

③「未婚の女の再度の訴え」(645行～854行)

最初に証言した娘が、老人と結婚した女の擁護に立ち上がる。貧しさのためにお前のような老人と結婚したのだ。性的な満足など得られないのだから、安心できる家を与えられるのは当然だ。こんな状況を生み出さないためにも、若い聖職者に結婚が許されるならば、すべてが解決する。若い男と若い女が結ばれるようにしてほしい、と訴える。

④「イーヴァル様の裁定」(855行～1026行)

裁定を任されているイーヴァルは娘の訴えを取り上げ、新法を定めることを宣言する。21歳以上で結婚していない男たちを捕えて、ひどい罰を与えることを許可する。不能の老人と結婚した女には、子孫を残す自由を与える。また聖職者の結婚についてはローマからの指示を待とう、と判定を下すにとどめる。未婚である35歳の詩人は、その法廷の場で鞭打ちと皮を剥がれる厳罰を受けそうな展開になる。しかし、新法の発効の日付を娘が書きつけているまさにその瞬間、詩人は夢から覚める。

## (2) 成果の位置付けと今後の展望

この詩を中心に経済、社会、言語、当時の文学的伝統のありようを探ることは、これからのアイランド研究を発展させる上で一つの鍵となる。18世紀アイランドについては、アングロ・アイリッシュによる英語文学、ダブリンを中心とした政治史の研究は進んでいるが、アイランド語でどれほどの文化が繰り広げられていたのかについては、日本では研究があまり進んでいない。この研究はその意味で大きな一石を投じたと言える。

今後の研究対象は18世紀末のメリマンから200年さかのぼり、言語史上では現代アイランド語の始点に位置するキーティング(Geoffrey Keating, c.1580-c.1644)の作品に移る。キーティングによる『アイランドの歴史』(*Foras Feasa ar Éirinn*)は、古代からアングロ・ノルマンの侵略に至るまでのアイランドの歴史を語ったものである。この歴史物語は、中世の写本から、地名伝承、古典詩、系図学、古代アイランド諸侯の偉業を織り込み、その美しい文体とともに近代アイランド語の手本とされてきた。また、17世紀に芽生えてきたアイランドの独立運動に対して歴史的なコンセプトを提供するという意味でも大きな影響を及ぼした。また、17世紀は詩の形式が音節詩から強勢詩に移

る転換点でもある。したがってキーティングを研究することはアイランドの歴史観を知るだけでなく、現代アイランド文学の起点を知ることでもある。

(3) 各自のアイランド語関連研究の成果は以下のとおりである。各領域の視点ごとに列挙する。

## ① 詩

・現代詩人ニゴータル

ヨーロッパ全体を視野に入れ、アイランド語文献も参照しつつアイランドの人魚伝説の歴史を辿り、「人魚をめぐる試論-人との境界のゆくえ」として『ヌーラ・ニゴータル詩集』の巻末に添えた。

・現代詩人ヒーニー

ヒーニーは、『真夜中の法廷』英語訳者であり、現代アイランドを代表する詩人であり、その政治文化が抱える葛藤の只中で仕事を重ねてきた。その葛藤は、丁度『真夜中の法廷』が書かれた頃に熾烈化し始めたのである。シンポジウム *Seamus Heaney II* では、そのヒーニーの業績を紹介するしかたを論じた。

北アイランドの和平プロセスにおいて画期的であった武装放棄の約束が果たされたまさにそのころ、詩人シェイマス・ヒーニーは詩集『水準器』をまとめようとしていた。これを精読し、国際学会でその成果を発表した。北アイランド紛争とそれをめぐる言説は近代の評価に関する意見の衝突であり、その両端に、『真夜中の法廷』の世界と現代アイランドの詩人たちの世界とが位置しているからである。

また、ヒーニーの詩集『電燈』の研究も行った。

・中世詩

七世紀アイランドの修道女 *Liadan* の作とされるアイランド語詩が、20世紀に入って多数の詩人や学者によって翻訳されていることに注目し、その翻訳作品を収集し、読解と比較を行い、原詩の持つ解釈の幅と曖昧性を検討した。

## ② 歌唱

アイランド語歌唱芸術の現代的意義の研究として最近10年間のオリーアダ杯(アイランド語歌唱大会)でうたわれた歌の調査を実施し、シャン・ノース歌唱に関するパダル・オリーアダの再評価の研究を行った。

## ③ 歴史

アイランド独立初期におけるアイランド語で書かれた文学を対象にアイデンティティ確立の問題に焦点を絞って研究を行った。その結果、『アイランド・ケルト文化を学ぶ人のために』の中で大飢饉と移民のテーマについて書き、出版した。そのテーマ

は同時代のアイルランド語世界の状況や民族主義運動ヤング・アイルランドの蹉跌との深い関係を明らかにした。20世紀の政治文化とも不可分で、今後のためにより下地を得た。

#### ④ 言語学

アイルランド語の中性名詞は中期アイルランド語の時期に消失したと言われているが、名詞によって中性でなくなる速度が違い、また、定冠詞や代名詞など中性名詞の指標も中性がなくなる速度が異なる。その消失の仕方の違いについて論じた。

#### ⑤ ケルト学

7 古代ガリアの職人に焦点を当て、特に鍛冶・冶金に関する図像史料について、ローマ征服以前からガロ＝ローマ期にわたる変遷とそれに伴うガリア社会との関連性などについて検証・考察した。

#### ⑥ 童話

アイルランド語で書かれた童話を翻訳し、出版した。日本では、アイルランド語で書かれた童話の翻訳・出版は、初めてである。それと同時にJ. C. マンガンの翻訳詩「オハッシーに捧げるオード」の研究も進めた。

#### ⑦ イギリス詩との関連

中世から近代初期にいたるイギリスのアイルランド政策との関連から、アイルランド詩とイギリス詩を考察。特に形式、内容の両面から、それらの相互関係を論じた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

① 岡村真紀子、武田雅子、John Hollander 著 Rhyme's Reason 翻訳 [1]、大阪樟蔭女子大学研究紀要、無、第2巻、2012年、pp.117-122

② 岡村真紀子、武田雅子、John Hollander 著 Rhyme's Reason 翻訳 [2]、大阪樟蔭女子大学樟蔭英語学会誌 英語と文化、有、第2号、2012年、pp.25-36

③ 岡村真紀子、上利政彦訳注『トテル詩選集 歌とソネット 1557』、英文學研究、無、第88巻、2011年、pp.117-122

④ 岡村真紀子、川島伸博、ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第1部 第2章 第1-10項、京都府立大学学術報告 人文、有、第63号、2011年、pp.111-138

⑤ 岡村真紀子、川島伸博訳 ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第1部 第2章 第2節 京都府立大学学術報告 人文、無、第62号、2010年、pp.37~66

⑥ 疋田隆康、好古家の「ケルト」観 —ケリュス伯とエドワード・ギボン—、西洋古代史研究、無、第10号、2010年、pp.53~62

[学会発表] (計14件)

① 岡村真紀子、The Shadow of Night に光を当てる—ジョージ・チャプマンの知、十七世紀英文学会関西支部 186回例会、2012年3月24日、大阪YMCA

② 荒木孝子、反英の歌—アシュリング、天理大学 EU 研究会、2011年10月11日、天理大学

③ 谷川冬二、Re-writing memories: the significance of the poet's returning home in The Spirit Level, Irish Literatures: Conflict and Resolution, IASIL 2011, 2011年7月21日、Catholic University of Leuven, ベルギー

④ 梨本邦直、現代アイルランド語詩の流れ—ショーン・オリールダーイン、日本アイルランド協会年次大会、2011年11月3日、青山学院大学

⑤ 中村千衛、The Use of the Neuter in Lebor na hUidre and Gender Loss in Irish, XIV International Congress of Celtic Studies, 2011年8月2日、The National University of Ireland, Maynooth, アイルランド

⑥ 菱川 英一、子守唄が宿す物語 —'A Bhean úd thíos', イェイツ協会、2010年9月26日、琉球大学

⑦ 菱川 英一 (谷川冬二代読)、『電燈』(コンセプト・マップ)、日本英米詩歌学会、2010年11月20日、立教大学

⑧ 岡村真紀子、Some difficulties in translating John Donne's Biathanatos into Japanese, Modern Language Association, 2011年1月9日、J. W. Marriott, Los Angeles, アメリカ

⑨ 疋田隆康、ケルトの神々とガリア社会—職人と信仰、第78回西洋史読書会大会、2010年11月3日、京都大学

⑩ 中村千衛、アイルランドの言語状況と言語教育の今昔、天理大学 EU 研究会、2010年10月5日、天理大学

⑪ 谷川冬二、シンポジウム Seamus Heaney II <コンセプト・マップの設定>および<訳は

誰のものをを用いるか>、日本英米詩歌学会・第23回大会、2010年11月20日、立教大学

⑫菱川 英一、アイルランド語の論理と表現、神戸大学大学院人文学研究科「言語としてのロゴス」分科会、2010年1月26日、神戸大学大学院人文学研究科

⑬中村 千衛、アイルランド語研究の現在の動向と中性名詞の研究、日本ケルト学会第20回西日本支部研究会、2009年6月27日、神戸学院大学

⑭中村 千衛、現代アイルランド語に見られる中性名詞の痕跡、京大大学言語学懇話会第81回例会、2009年12月19日、京大会館

〔図書〕(計6件)

①池田寛子、彩流社、*イエイツとアイリッシュ・フォークロアの世界*、2011年、397

②岡村眞紀子、滝口晴生、他11名十七世紀英文学会編、金星堂、*十七世紀英文学と科学*、2010年、272

③荒木孝子 他共訳、メイヨー社 (アイルランド)、ルーアリーびょういんへいくーコルマーン・オラハリー著、2010年、32

④池田 寛子 編訳、訳注、解説、土曜美術社出版、新・世界現代詩文庫11『ヌーラ・ニゴール詩集—アイルランドの人魚歌』、2010年、164

⑤谷川 冬二、世界思想社、『大飢饉と移民』、風呂本武敏編『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』第I部「テーマのおもしろさ」第5章 pp.53-63 に所収、2009年、332

⑥荒木 孝子 他共訳、メイヨー社 (アイルランド)、ルーアリーのついていない一日、2009年、30

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

梨本 邦直 (NASHIMOTO KUNINAO)  
法政大学・理工学部・教授  
研究者番号：30340748

### (2) 研究分担者

池田 寛子 (IKEDA HIROKO)  
(2009.4.1~2010.3.31)  
広島市立大学・国際学部・准教授  
研究者番号：90336917

春木 孝子 (HARUKI TAKAKO)

(2010.4.1~2011.3.31)  
神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授  
研究者番号：80228668

菱川 英一 (HISHIKAWA EIICHI)  
(2011.4.1~2012.3.31)  
神戸大学・人文学研究科・教授  
研究者番号：80165109

谷川 冬二 (TANIGAWA FUYUJI)  
(2011.4.1~2011.8.23)  
甲南女子大学・文学部・教授  
研究者番号：50163621

### (3) 連携研究者

池田 寛子 (IKEDA HIROKO)  
(2010.4.1~2012.3.31)  
広島市立大学・国際学部・准教授  
研究者番号：90336917

春木 孝子 (HARUKI TAKAKO)  
(2009.4.1~2010.3.31, 2011.4.1~2012.3.31)  
神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授  
研究者番号：80228668

菱川 英一 (HISHIKAWA EIICHI)  
(2009.4.1~2011.3.31)  
神戸大学・人文学研究科・教授  
研究者番号：80165109

岡村 眞紀子 (OKAMURA MAKIKO)  
京都府立大学・文学部・教授  
研究者番号：80123488

谷川 冬二 (TANIGAWA FUYUJI)  
(2009.4.1~2011.3.31, 2011.8.24~2012.3.31)  
甲南女子大学・文学部・教授  
研究者番号：50163621

荒木 孝子 (ARAKI TAKAKO)  
天理大学・国際文化学部・講師  
研究者番号：20412124

### (4) 研究協力者

疋田 隆康 (HIKIDA TAKAYASU)  
京都女子大学・講師

中村 千衛 (NAKAMURA CHIE)  
天理大学・講師

福本ひろ (Fukumoto Hiro)  
木津中学校教員

増田 弘果 (Masuda Hiroka)  
奈良県職員